

### 3 | 大村地域まちづくり構想

#### 3-1 地域の現状

##### (1) 概況

本地域は、焼津市の北西部に位置し、面積は約 392ha で地域の約 6% を占めています。昭和 29 年に大覚寺地区、昭和 32 年に越後島地区が当時の周辺の市町村から焼津市に編入され、今の地域の一部になっています。

地域内には焼津駅、東名高速道路焼津 IC、国道 150 号があり、交通の利便性の良い地域として商業、工業、住宅それぞれの土地利用が進んでいます。

##### (2) 人口の推移

令和 6 年における本地域の人口は 12,821 人、世帯数は 6,154 世帯となっています。人口は減少傾向に、世帯数は増加傾向にあります。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満が減少傾向に、15 歳～65 歳未満及び 65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が強まっています。令和 6 年における 65 歳以上人口の割合は 28.6% で、高齢化率は 3 番目に低い地域となっています。

大村地域 位置図

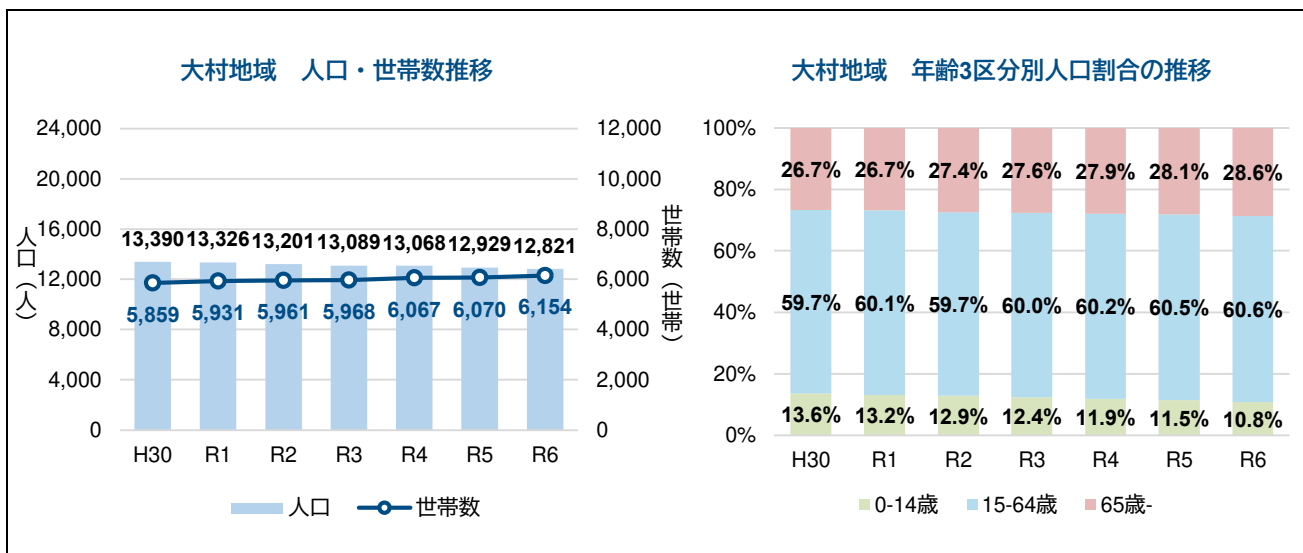


図 2-2 大村地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移 (住民基本台帳より)

## 3-2 地域の将来像

### 大村地域の将来像

- 多彩な地域資源を活かした、多くの人が交流するまち
- 自然環境と共生した、健やかに過ごせるまち
- 自然災害に備え、地域の絆を強めるまち

## 3-3 地域のまちづくりの課題

### ● 地域資源を有効活用したにぎわいづくり

- 焼津駅や焼津 IC などを有する高い交通利便性を活かし、地域住民や観光客が交流する活力あるまちづくりを進めるとともに、安心して買い物ができる空間や、良好なまち並み景観を創出する必要があります。
- 焼津 IC 周辺においては、観光資源をまちづくりに有効に活用するとともに、市内外の連携を促進するための道路交通機能の強化と、健全な市街地環境を計画的に形成する必要があります。
- 高齢者の増加に対応するため、公共交通などによる日常生活を支える移動手段の充実を図る必要があります。またこどもや高齢者、観光客等、誰もが安全・安心に通行できる歩行者空間を創出する必要があります。
- 焼津駅や焼津 IC を中心として、周辺の環境に配慮した産業集積や新たな商業施設の立地を促進し、隣接地域との連携ネットワークを構築する必要があります。

### ● 緑豊かな自然資源の活用

- 瀬戸川や朝比奈川などの地域を流れる河川と水辺、周辺の緑地を守るとともに、地域住民の憩いの場、交流の場、健康づくりの場として効果的に活用する必要があります。
- 土地区画整理事業により計画的に整備された良好なまち並み環境の保全と活用を図ることが必要です。

### ● 地域の活力向上と、大雨などによる自然災害への備えの充実

- 地域活動の中心地である大村地域交流センターなどを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- 大雨時の河川氾濫、道路冠水等の防止・軽減に向けて、瀬戸川や朝比奈川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- 過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。



## 3-4 地域のまちづくりの方針

## 1 | 焼津駅や焼津 IC を活かした、多様な交流を創出するまちづくり

- 都市拠点である焼津駅周辺においては、公共交通の結節点に位置するメリットを活かし、商業機能・居住機能など、主要な都市機能の集約を図り、生活交流・観光交流を促進していきます。中心商業・業務地として位置付けされている駅北二丁目・三丁目地区においては、地区計画の制度を活用し、健全な商業地としての育成と良好な環境を維持し美しいまちづくりに努めます。また、多様な人々が暮らし・集い・交流する空間へと再生し、にぎわいをまち全体へと広げる中心的な役割を果たすため、駅前広場及び複合施設整備の具体化に向けた検討を進めます。さらに、官民連携によるにぎわい創出に向けた取組を進めます。
- 流通業務地や市街地環境整備検討地（P17 参照）である東名高速道路焼津 IC 周辺においては、交通利便性を活かし、集客施設を有効活用した、積極的な魅力づくりと情報発信により、観光交流の推進を図ります。また、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心・快適な生活を営むことができるよう、良好な住環境づくりに努めます。
- 隣接都市及び市内の円滑な移動を可能にするため、（都）焼津広幡線を計画的に整備するとともに、こどもから高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、新しい移動手段の普及等、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。
- 焼津 IC 西側では、近接する焼津 IC 及び東名高速道路等の交通ネットワークを活かすとともに、周辺の環境に配慮し、雇用の創出等の経済効果を生み、地域の活力を高める新たな土地利用を検討します。また、焼津 IC 東側では、焼津 IC や JR 焼津駅と接続した交通アクセス性の高さを活かし、新たな商業施設等の立地を促進します。



焼津 IC

## 2 | 瀬戸川など地域の自然資源を活かした、緑につつまれる景観まちづくり

- 瀬戸川、朝比奈川などの地域ならではの自然資源を守り、活かすための地域独自の景観への取組を通して、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めます。
- 大覚寺公園や八楠公園などでは、緑や花で人々にやすらぎやくつろぎを与えるとともに、健康づくりやスポーツ・レクリエーションの場を創出します。
- 環境の保全と衛生的で快適な生活基盤の充実を図るため、ボランティアなどの地域住民が主体となった環境美化活動を推進します。



瀬戸川

## 3 | 大村地域交流センターなどを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、総合的な治水対策をはじめとする防災・減災まちづくり

- 大村地域交流センター、大覚寺公園、総合福祉会館（ウェルシップやいづ）など、地域活動の中心地にある既存施設を有効活用しながら、こどもから高齢者まで誰もが、集い、学び、憩うことのできる場づくりを進めるとともに、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。
- 台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、瀬戸川水系、小石川水系流域治水プロジェクト、小石川・黒石川水災害対策プランに基づき、流域のあらゆる関係者が協働し流域全体で水害を軽減させる流域治水の取組を推進します。
- 地域のこどもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。
- コミュニティ防災センターにおいては、平時から自主防災会との連携を図りながら、災害時には地域の防災拠点として機能を果たせるよう努めます。



大村地域交流センター

